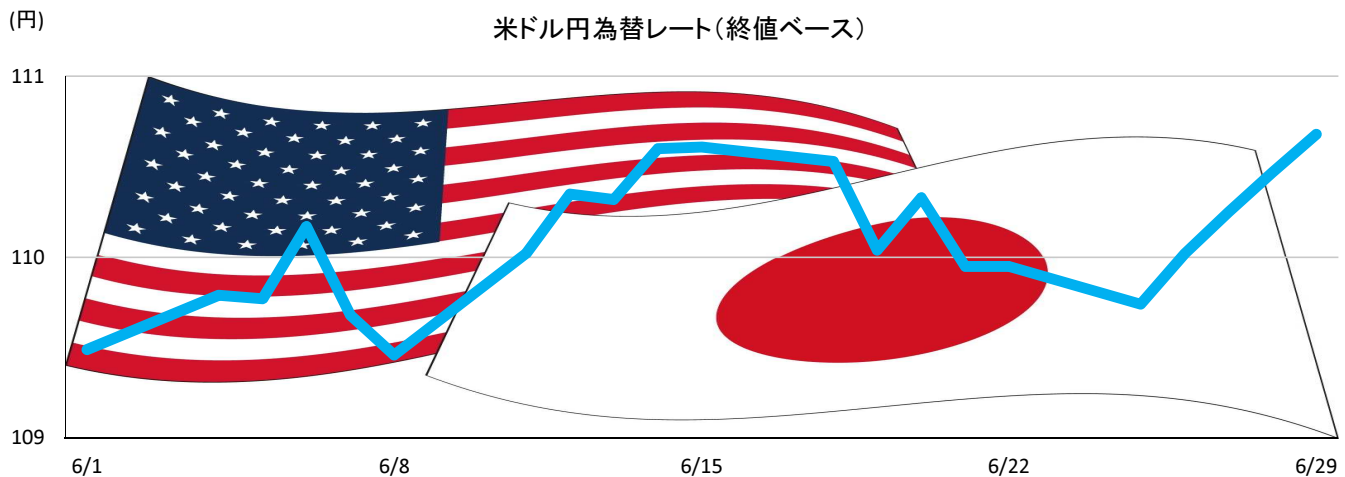


MARKET REVIEW

先月の振り返り: 6月のドル円相場は、108円後半～110円後半で推移。米中貿易戦争懸念について欧米各国の亀裂が鮮明化しドル売りの流れになったが影響は限定的。12日に史上初の米朝首脳会談が行われたことで、合意内容に関しては賛否あったものの、期待感を含めたドル買いの流れに。その後FOMCで年内の利上げ回数について増加の見通しとなり、金利差拡大の思惑が台頭したことで、ドル買いが継続した。しかし、トランプ大統領が、関税で2000億ドルの中国製品を確認するよう指示、ハーレーには高額な税金を課す、などの発言から一転ドル売り。ただ月間でみると変動幅が2円弱だったこともあり膠着相場といえる状況だった。



EXTRA VISION

今後の展開: 米中貿易問題が全面戦争の様相を呈してきた。米国として対中国を相手にしているが、日本をはじめ欧州やカナダなどの国々とも貿易問題がくすぶり続けていることから注意したい。トランプ大統領は中間選挙にむけての動きがより活発となってきており、引き続き対外政策より国内向け政策を中心に行動を起こしてくるだろう。現時点での政策等はドルの上値を抑制する結果となっており、金利差期待感によるドル買いとの攻防がしばらく続いていきそうだ。

今月の主な経済指標 ※ 日本時間

日付	時間	国	指標名	重要度
7 / 26 (木)	20 : 45	EU	欧州中央銀行 (ECB) 政策金利	☆☆☆☆
7 / 31 (火)	** : **	JP	日銀金融政策決定会合	☆☆☆☆
8 / 2 (木)	3 : 00	US	米連邦公開市場委員会 (FOMC)	☆☆☆☆☆
8 / 3 (金)	21 : 30	US	米雇用統計	☆☆☆☆☆
8 / 10 (金)	21 : 30	US	消費者物価指数 (CPI)	☆☆☆☆
8 / 13 (月)	8 : 50	JP	日GDP速報値	☆☆☆☆
8 / 14 (火)	18 : 00	EU	欧州GDP改定値	☆☆☆☆

本書面は、合同会社フィナンシャルヴィレッジプレゼンス(以下「当社」)が、投資一般に関する情報提供を目的とするものであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。本書面に記載されている情報には将来的な業績や出来事に関する予想が含まれていることがありますが、それらの記述はあくまで予想であり、その内容の正確性、信頼性等を保証するものではありません。また、情報の正確性については万全を期しておりますが、その正確性、信頼性等を保証するものではありません。投資に関するすべての決定は、ご自身の判断でなされるようお願い致します。本書面に記載されている情報に基づいて被ったいかなる損害についても、当社及び情報提供者は一切の責任を負いません。